

< 認知症対応型共同生活介護用 >

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
所在地	熊毛郡中種子町牧川1680-1 (電話) 0997-24-8080

評価機関名	特定非営利活動法人社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年8月28日   評価確定日   平成20年10月9日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット   利用定員数計 9 人
職員数	12   常勤 1 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 7.0

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000円(光熱費・日用品)	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円 (おやつ代は含まない)		

### (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	61 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	多愛病院   日高歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

寿の家は海の見える高台にあり周辺は自然環境に恵まれた静かなところである。広い敷地内にホームと代表者の自宅があり1ユニットの夜勤者には何かと心強い助けとなっている。代表者はデイサービス、託老所、居宅介護支援事業所、ヘルパー養成事業と、地域の高齢者福祉事業を支える役割を担っている。このホームは入居者の介護度が高い人が多く、支援するスタッフの人数も多い。職員は『ゆっくり、一緒に、楽しく』という理念にそって、入居者と1日を楽しく送れるようメリハリのある生活支援がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	ホームの事情により前年度外部評価の主な改善点8項目については殆ど取り組みができていない。今年度も引き続き取り組みを望みます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は日常業務の振り返りの機会と捉え、新人を除いた職員に自己評価票を配り記入してもらいとめている。自己評価の意義について理解を促す機会と捉え、新人職員の参加を望みます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は19年10月に第2回の開催がされ、メンバーの協力が十分に得られずそれ以降の開催はできていない。メンバーへの呼びかけに努力され定期的に開催できることを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームには意見箱を設置したり、毎月のご家族の訪問時話をしやすいように努力している。重要事項にも苦情相談窓口を記載しているが、担当者名や行政、国保連の連絡先が具体的でなくご家族にはわかりづらい。苦情受付簿もあり検討や処理、報告をする仕組みもあるが今までに申し出は無い、
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは牧川集落内にあり、管理者は集落の集まりに参加している。介護度の高い入居者が多く活発に活動できる状態でないが、敬老会、小学校運動会など入居者と地域行事に参加している。又ホーム主催の敬老会、新年会、夕涼み会、運動会に地域の人も参加してもらい交流している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族的な雰囲気の中でその人らしく暮らし続けるための事業所独自の理念が作られているが、地域密着型サービスとしての理念には乏しい。		グループホームが地域密着型サービスに移行した状況の変化に伴い、現状に合った理念の見直しを望みます。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は重要事項の表紙に明記され、職員が常に理念を意識できるように玄関近く、食堂、洗面所の目につきやすい位置に掲示されている。会議においても、ケアの実践中においても理念の意識づけをしながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは牧川集落内にあり、管理者は集落の集まりに参加し、入居者と地域行事(敬老会、小学校運動会など)に参加している。又ホーム主催の敬老会、新年会、夕涼み会、運動会行事に地元の人に参加してもらい交流に努めている。		
いし					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員異動時期があり、新人を除いたメンバー5名に自己評価票を手渡して記入してもらい管理者がまとめて作成している。前年度外部評価の改善点についての取り組みはできず今年度に引き続き改善課題である。		自己評価は新人職員に自己評価の意義など理解してもらう機会と捉え、新人職員も参加し全員で取り組んで欲しい。又昨年度の外部評価改善課題について今後も継続して取り組みを期待します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は19年10月(開催2回目)の開催に留まり、メンバーの協力が十分に得られず開催されていない。		運営推進会議は省令で義務づけられたもので、定期的開催され、サービスの質の確保ができるよう努力して欲しい。

鹿児島県 グループホーム 寿の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに入居状況の報告をし、町の担当者に日々の生活や取り組みを説明し、ホームの行事の都度招待状を持っていき参加の呼び掛けをしているが1回の参加に留まっている、協働関係を築くような機会が十分に持たれていない。		町の担当者にホームの現場の実情を知ってもらい、協働関係が築けるような関係づくりに努力されることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ことぶき便りを3か月に1回発行しているが、12月発行で止まっている。ご家族から毎月の支払を手渡しで受け取り、面会の機会に日々の状況を報告している。金銭の預かりは通帳で管理し、1年に1回通帳のコピーと領収書を送っているが、毎月の希望者にも柔軟に対応している。		たよりの発行が困難であってもそれに代わる担当職員のたよりなどで、毎月ご家族には入居者の暮らしぶりを定期的に伝えられ、ご家族が安心できるような取り組みをして欲しい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や重要事項説明書に苦情等相談窓口が記載されているが具体的な担当者名、行政、国保連の連絡先など具体的に記載されていない家族にわかりづらい。苦情受付簿もあり検討や処理、報告をするようにしているが、今までに申し出はない。		重要事項の苦情相談窓口担当者名、行政、国保連の連絡先など具体的に記載して欲しい。ご家族からの要望、意見、相談など小さなことでも、聞き出せる機会を工夫され、ホームの運営に反映させる取り組みをして欲しい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度一度に多数の退職者があり、管理者は介護日誌やなんでもノートを活用し新人が早く入居者の特徴が把握ができるよう指導し、ダメージを最小限に抑えるよう図っている。		離職者が多いことで入居者やご家族に不安を与えるため、職員の離職を少なくする工夫や急な離職が起こらない工夫、引き継ぎがスムーズに移行できるような取り組みをして欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のない人にはホームヘルパー2級講座の受講機会を配慮している。新人職員には業務マニュアルにそってB勤務帯の人が1カ月教育している。職員には島内、島外を問わず研修機会に参加できるよう図り、研修報告により、参加しなかった職員も学習している。		経験や習熟度に応じた学びの機会を確保する為、仕事に支障が起こらないよう年間の研修計画を作成し、職員の育成をすることを望みます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内のグループとの交流をしているが、同業者との交流は無い		地域の同業者が交流し、お互いに情報交換や勉強会の機会を通じて、サービスの向上にむけて取り組みを進めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族や本人に見学してもらったり、1日体験入所にも対応したりして、納得されてから入居している。入居してからも本人が落ち着けるよう家族と連絡をとりながら、その人のペースを速く把握し馴染んでもらうよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共に過ごす中で支援する立場だけでなく、昔話を教えてもらったり、野菜の植え付け時期を教えてもらったり、ゲートボールを教わったり喜怒哀楽を共感できるよう働きかけている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現状では意志の疎通が困難な入居者が多く、家族からの情報をもとに、職員が日々の関わりの中で表情や態度など小さな変化でも気がついたことを何でもノートに記録し、それも参考にしながら把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の記録担当者が、職員共有の気づきノートから生活面、身体面を把握し、集録したものを持ち寄り、本人やご家族と話し合いが進められ、意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者は1年に1回モニタリングし、介護計画の見直しを行い担当者会議を開催して新たな介護計画の作成をしている。変化のあった場合は必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>		<p>状態の悪い入居者が多いため職員と一緒に少なくとも半年、3か月に1回のモニタリングをして見直しを欲しい。</p>

鹿児島県 グループホーム 寿の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族の状況に応じ通院介助、外出支援、行政手続き介助、入居者の入院には洗濯物を届けたり、医師や看護師と状況話し合い、早期退院に向けての支援を行っている。ショートステイの利用ができるなどホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して、医療が受けられるよう家族と連携をとりながら通院介助を行ったり、定期健診をするなど支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時点でご家族には終末ケアについて説明している。重度化に伴い、ご家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有しながら支援している。		重度化や終末期に対するホームの対応指針を作成され、ご家族との契約時点で口頭説明だけでなく、書類説明をした上で同意してもらいたい。また重度化に伴い変化のある度本人、ご家族の意思の変化を確認するためにもその都度意思確認書の作成を勧めます。
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の日常のケアでの言葉かけや、記録についてプライバシーを損なわないよう配慮している。		新人職員が多いため、高齢者の尊厳ある姿を具体的に現せるように、入居者に対しての言葉かけ、秘密保持なども一度原点に立ち戻り、プライバシーに関する勉強会をし、職員の意識向上を図って欲しい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、ゆっくり寝たい人、夜遅くまでテレビが見たい人など本人のペースに合わせてその人らしく支援している。		

鹿児島県 グループホーム 寿の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	馴染みのある郷土料理で季節感を出すなど楽しい食事の工夫をしている。入居者に重度化の人が多く職員と一緒に食事がとれないが、能力に合わせた調理がなされ、そばに寄り添って、話しかけながら食事介助がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場はゆっくり眠れるよう夕方毎日シャワー浴をしている。冬場は2～3日に1回本人の状況に合わせて入浴している。希望があれば毎日でも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の高い入居者が多く、全員で活発な活動は行えないが、ゆっくりできる時間を使って1日に3回のメリハリあるレクリエーションが計画されて仲良く楽しそうに参加している。生活の中で、能力に見合った役割もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日は体調を見ながら、農道の散歩や近場のドライブをしている。介護度が高い入居者が多いので車椅子での散歩が無理な場合、居間についているベランダにソファを持って出し日光浴や気分転換の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないと対応に困る入居者もおられないため、玄関や勝手口、居室など鍵はしていない。落ち着いた様子の際は職員が付き添って外に出るよう支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消火器の使い方夜間想定火災訓練、通報の仕方など避難訓練をしている。車椅子での避難のためウッドデッキにスロープを設置し非難出口を1か所増やしている。災害時の食料備蓄をしている。		介護度の高い入居者、新人の職員が多く避難訓練の回数を増やし全員が自信を持って避難誘導できるようにして欲しい。災害時に備え、飲料水の確保を望みます。

鹿児島県 グループホーム 寿の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の栄養士のカロリー表を参考に献立をたてている。献立については保健所でアドバイスをもらったり、栄養指導を受け、一人ひとりの食事量、形態の検討がされている。ドクター指示のある人、状態のよくない人の水分量、尿チェックは記録している。		特定の人だけの記録だけでなく、食事や水分摂取量を記録され一人ひとりの1日の摂取量が確保できているか把握して欲しい。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは建物の中央に居間・食堂があり一角に1段高い畳のスペースやオープンデッキ、対面キッチンとゆったりした共用空間である。玄関にはクルクマの花を生け、壁には入居者が作った作品、行事写真が飾られ、ソファを置いたり観葉植物を置いたり居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた日用品や家具を持ち込み、機能的に生活できるように配置し、ホームで作った作品やご家族の写真、若い頃の写真を飾ったり居心地よく過ごせるよう支援している。		